

12月21日(水)に「新たな学びプロジェクト」に係る研修会を実施しました。これからの時代を生きていく生徒の資質・能力を育成するために、パフォーマンス課題と評価法の作成・活用が一体となった授業改善に係る提案を行いました。本校では教務規定により考查点100点・活動点100点と、組織的に授業改善を図ることができる環境にあります。特に活動点の内容に関しては、3観点を踏まえ教師が組織的・意図的・計画的に授業を仕組むことで生徒の資質・能力を育成することが可能です。そしてパフォーマンス課題と評価法の作成・活用が一体となった授業改善に取り組むことは、「指導と評価の一体化」の実現に大きく寄与するはずで、次年度に向けて、まずは3学期から少しずつ取り組んでいきましょう。

## 1 研修会アンケートの振り返り

- ・単元や授業の最初に目標とパフォーマンス課題、評価の方法を確認することで、生徒だけでなく教員も指導内容等の整理ができるということに納得した。
- ・活動点100点はかなり大きいので、教科内で統一した指導と評価は重要である。
- ・生徒にゴールを示すことやそこに到達するまでにはどのようなプロセスが必要になるのか明確に提示することで生徒の「学びに向かう力」の育成につながることを学んだ。
- ・ルーブリックを活用したパフォーマンス課題の概要とその方法については理解していたつもりだったが、実際に自分の授業を振り返ってみると、時間をかけて生徒の主体性を育む学びではなかったのかもしれないと思った。
- ・導入時にアウトプット予告することで生徒が能動的に取り組むようになるという説明がとても納得できた。
- ・パフォーマンス課題について少し理解が進んだかもしれない。「数時間をかけて目標に向け作り上げる」というイメージをもった。
- ・改めてパフォーマンス課題とルーブリックの効果の高さを感じた。今後は授業内でどのような課題を設定しルーブリックを作成するかである。(一部抜粋)

## 2 第2回授業改善に係るアンケート

期日：令和4年12月13日(火)

調査方法：質問紙法(4件法)

	質問項目	12月
1	日頃から、ALの視点をもって授業改善に取り組んでいる。	2.9
2	教科内で、評価方法や評価規準(基準)の共通認識が図られている。	3.1
3	教科内で、評価方法や評価規準(基準)を共有している。	3.1
4	単元や題材のまとまりごとにパフォーマンス活動(課題)を実施している。	2.8
5	ルーブリック等(学習到達度を示す評価基準等)を活用した評価法を取り入れている。	2.9
6	ルーブリック等の活用を通して授業改善に取り組んでいる。	2.7
7	ルーブリック等を活用したり、パフォーマンス課題を取り入れたりとすることで、生徒が主体的に学ぶようになると思う。	3.1
8	ルーブリック等(学習到達度を示す評価基準等)を活用して、生徒のパフォーマンス活動(課題)等を意図的に評価している。	2.8
9	ルーブリック等(学習到達度を示す評価基準等)を、パフォーマンス活動(課題)以外にも活用している。活用している場合は、その具体例を記入してください。	2.2
10	教科等横断的な視点をもって授業に取り組んでいる(取り組もうとしている)。	2.4

大変お忙しい中アンケートへの御協力、本当にありがとうございました。新しい時代に必要となる資質・能力を育成するためにパフォーマンス課題と評価法の作成・活用が一体となった授業改善は、その一助になると考えられます。折尾高校生の資質・能力の育成に向けて組織的に取り組みましょう。今後も先生方の御意見を参考に、校内研修や各種資料等に還元いたします。



## 3 パフォーマンス課題と評価法の作成・活用

パフォーマンス課題とは、



「さまざまな知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題」

### 作成のポイント

- 1 パフォーマンス課題が4つの視点を含んでいる
  - 真正性(リアルな課題になっているか)
  - 妥当性(測りたい学力に対応しているか)
  - 関連性(生徒たちの身に迫り、やる気を起こさせるような課題か)
  - レディネス(生徒たちの手に届く課題か)
- 2 各単元、単元や題材のまとまりでの実施(まずは学期に1~2回で取り組んでみる)
- 3 パフォーマンス課題を図るルーブリックの作成(多面的な評価)
- 4 単元導入時にパフォーマンス課題を提示しゴールを共有(アウトプット予告)
- 5 仲間と協働的な取組(納得解・最適解)の実現
- 6 ユニバーサルデザインの4つの視点(シンプル、クリア、ビジュアル、シェア)も意識

### 参考文献

西岡加名恵・田中耕治(2009)「活用する力」を育てる授業と評価 学事出版